

開講科目名 / Course	教職実践演習（養護教諭）	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	関根 剛、吉村 匠平、小野 治子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	<p>教職課程のハイライトである養護実習は、実際の教育現場である学校で行われる。このため、養護実習の実習内容は、学校種、学校の規模、教職員の配置、校区の特性などに大きく影響を及ぼすことになる。教育実践演習では、まず、養護実習を振り返り、履修カルテを作成することで、各自が実習で何を学び、何を学んでいないかを明確にする。その上で、多くの履修者にとって不足しているであろうトピックを取り上げて、演習を展開する。施設見学実習に関しては、日程調整が必要なため、授業計画に示した施設を訪問できるかは未定である。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの履修内容、養護実習を振り返り、自身の養護教諭としての適性について説明する。</li> <li>2. 養護教諭になるための現時点の自己課題を明確にし、説明する。</li> <li>3. 自己課題に向き合うために、どのような学習が必要か言う事ができる。</li> <li>4. 卒業後の進路を決定する。</li> <li>5. 教職課程を履修することが、看護学の学びにどのように影響したか、説明できる。</li> </ol>	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01-03. 養護実習の振り返り 04-06. 養護実習での学び（参加者によるプレゼンテーション） 07-09. 履修カルテを用いた4年間の学習の振り返り 10-12. 施設見学実習（特別支援学校） 13-15. 施設見学実習（厚生施設） 16-18. 投影的な自己理解（フォトコラージュの作成） 19-21. アイスブレイクの理論と実演 22-24. 保健指導演習（1） 25-27. 保健指導演習（2） 28-30. 保健指導演習（3）	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてゲストスピーカーを招聘する。</li> <li>・校外への見学実習を企画する。その際の移動に要する費用は、原則参加者の負担となる。</li> <li>・学生が、課題に取り組み、作成し、表現する機会を多く設ける。</li> </ul>	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間中に完成できなかった課題を持ち帰り、完成させること。</li> <li>・見学実習のレポート作成</li> <li>・アイスブレイクのファシリテーションができるよう、web上の動画を見て準備をする。</li> </ul>	
評価方法と評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種プレゼンテーション（50%）</li> <li>・履修カルテ、レポート、制作物（50%）</li> </ul>	
テキスト		
参考書	養護実習ハンドブック（東山書房）	
履修する上で必要な要件		
その他	卒業研究と並行しての履修です。タイムマネジメントの絶好の学習機会と考えてもらえると嬉しいです。 4年間を振り返り、教職課程を履修してよかったと思える点を多く発見しましょう。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根 剛：臨床心理士 吉村匠平：保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校での教育相談活動 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校で頻りに観察される事象を例にとりながら、課題を構成し、例示を行う。	